

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

| 達成度（評価） | |
|---------|-------------|
| A | 十分達成できている |
| B | おおむね達成できている |
| C | やや不十分である |
| D | 不十分である |

| | |
|------------------|--|
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> 学力向上については、学校の授業に対して児童はほぼ肯定的な回答をしている。校内研究を中心に、見直しをもち学ぶ楽しさを実感できるような授業ができていと考えられる。若手教員が増えていることもあり、校内研究を通してさらに指導方法の工夫を行っていく。 児童の協調性・自主性の育成に向けて、集会での司会、縦割り活動や運動会、係活動など児童が活躍する場を設けたことについては、児童や保護者も肯定的な回答をしているため、一定の成果を上げることができた。次年度は、「はきものそろえ・返事・挨拶」の3つがさらにできるように継続して取り組んでいく。 教育業務支援員やICT活用、校時の見直しにより、業務改善が進んだ。今後は、業務の見直しや退勤時刻や在校時間についての意識改革推進を行い、指導方法の共有化等をする時間や児童と向き合える時間をさらに増やしていきたい。 |
| 2 学校教育目標 | みんなが仲よく みんなが楽しい学校 |
| 3 本年度の重点目標 | チームワーク ・子どもたちのチームワークで ・全職員のチームワークで ・地域・保護者の皆様とのチームワークで 学力向上 ・楽しい授業の創造(授業改善) ・進んで取り組む家庭学習への改善 ・端末活用の推進 すべての子どもを大切に教育 ・特別支援教育の充実 ・学校全体のUD化 ・心の教育の充実 |

| 4 重点取組内容・成果指標 | 中間評価 | 5 最終評価 | 主な担当者 |
|---------------|------|--------|-------|
|---------------|------|--------|-------|

| (1)共通評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|--------------------|--|---|---|-------------|--|-------------|---|---------|--|-----------|
| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| 評価項目 | 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見直し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ○学ぶ楽しさを実感できる授業の実践 | ○「授業が楽しい」について肯定的な回答をした児童の割合が90%以上 | ・対話的な学びを尊重し、児童が複数で主体的な学びを行うようにして、学ぶ楽しさを味わわせる。 | B | ・研究授業等を授業者だけに任せるのではなく、各学級でも事前授業等を行い実践してきた。各学級で対話的な学びを意識した授業の流れを各教科で進めている。 | A | ・学校は、児童にとって授業が楽しく分かりやすいように指導方法を工夫している。保護者アンケートで約92.7%がよくあてはまる、あてはまると回答している。 | A | ・校内研究のみならず、対話的な学習を意識して実践しよう意識付けできた。児童アンケートで約8割の児童が話し合いがとても好き・好きと回答している。 | 研究主任 |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 | ○「学校が楽しい」について肯定的な回答をした児童が90%以上 | ・年に3回のほかほかタイムで共通した項目で道徳的活動を行い、自己肯定感や思いやりの心を育む。 | B | ・ほかほかタイムを1、2学期に2回実施できた。全校同一教材で学習したことで、共通理解を図ることができ、心の教育の一助となった。 | B | ・「学校が楽しい・まあまあ楽しい」と答えた児童は約85%。しかし、「あまり楽しくない・楽しくない」と答えた児童もいて、友達との関わりへの不安を理由に挙げていた。児童の気持ちに寄り添い、安心して生活できるように配慮していく必要を感じる。 | A | ・ほかほかタイムだけでなく、普段の道徳の授業や生活の中でも、思いやりの心を育む活動を継続していきたい。 | 心づくり部 |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | ○いじめの早期発見、早期対応について組織的にできていると回答した教員100% | ・年に3回のアンケートを実施して、実態を把握し、個別に対応する。 | B | ・7月、10月のいじめアンケートについては、取った後に気になる記述に対しての聞き取りを行い、その対応については管理職も共有している。 | B | ・アンケートの結果は88%だった。今後、更に上がるようにしていきたい。 ・年3回実施し、事後の対応もすることができた。 | B | ・アンケートは学期に1回のペースで行ったが、気になる学級においては、月に1回とった。今後、他学年も回数を増やすことも考えている。 | 主幹教諭 |
| | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。 | ●「先生はあなたのよいところを認めてくれていてと思う」と回答した児童生徒90%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上 | ・各種キャリア教育や体験活動において、児童に活動の価値を感じさせながら見通しと学びの成果を振り返りを行う活動を仕組む。 | B | ・各学年や学校全体で各教科や行事等を通して、他者や地域と関わり合う活動を実施し、自分のよさ、他者のよさ、地域のよさを感じる事ができている。地域学習を通して、郷土愛を感じる感想を書くことができた。 | A | ・各学年や学校全体で各教科や行事等を通して、他者や地域と関わり合う活動を実施し、自分のよさ、他者のよさ、地域のよさを感じる事ができている。地域学習を通して、郷土愛を感じる感想を書くことができた。 | A | ・職員全体で見ると児童の様子をよく見て褒めたり、認めていることが分かる。児童の自己有用感を高めることができていると考えられる。 ・キャリア教育においては、職業体験だけでなく実際に農業をしている人に話を聞いて、その人たちの仕事をする時の思いを知ることができた。 | 教頭 各担任 |
| | ○児童が安心して学校生活を送るために、チームワークを意識した学級経営、学年経営を行う。 | ○担任アンケートで、学年経営について90%以上がチームで取り組んでいると感じているか。 | ・学級活動や児童会活動、学校行事で児童が活躍する場を仕組みとともに、話し合いの場を設け、子どもたちの意見を反映させていく。 ・学級で起きた問題などを学年会で共有の時間を設けて対処していく。 | B | ・特約的行事や学年行事において、学年全体で児童主体としながら進められるように、担任団が準備をしている。諸問題についても学年で対応しようとする意識づけができていく。 | A | ・学年主任を中心に学年団で対処しようとした場面が多く見られた。学年、学校全体での共有も早めにして、対応を検討したり、実際に対応したりした。 | A | ・各種問題が起きたが、担任間や管理職を交え、対応を検討して進めてきた。学年主任のリーダーシップにより、諸問題への対応ができた。来年度もメンバーが変わっても、この姿勢や学校風土を維持していきたい。 | 教頭 各担任 |
| ●健康・体づくり | ○健康を考えて行動できる能力の育成 | ○「ルールを守って遊んだ。」、「1週間に3日は外遊びをした。」と回答した児童80%以上。 | ・運動場や遊具での安全な遊び方やルールを周知する。 ・様々な遊びに触れ、体を動かすことで健康に過ごすことができるようにする。 | B | ・掲示物を作成し、全校に遊び方の周知を行った。 ・体育委員会の児童を中心に遊び方や遊べる種目を設定し、環境整備を行った。呼びかけを行う中で、活動場所や内容を徹底し、ルールを守ることも自分の健康を考えた活動が増えてきた。 | B | ・75%の児童が週3日以上外で遊んでいると回答した。ルールや活動場所などの決まりを守る児童は増えている。 | B | ・休み時間の過ごし方で、室内で過ごす児童の割合が若干増えていることを感じる。遊び方を紹介したり、道具を貸し出ししたりして、遊びもUD化を目指していきたい。 | 保体部 |
| ●業務改善・教職員の働き方改革の推進 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上 | ・業務記録票を活用したり、月に1回必ず定時退勤日を設定したりして、退勤時刻や在校時間を意識して勤務できるようにする。 | B | ・定時退勤日を設定し、意識づけはできた。早く退勤しようという意識は見えた。 ・年休取得等について意識づけを行ってきたが、個人差があり、なかなか進まない。 | B | ・71%が退勤時間を意識していると答えた。 ・年休取得日数の平均は11.7日と14日に及ばなかった。 | B | ・長期休業中にまとまった休みを取ることを推奨して、年休取得を促進させたい。 ・残業についても、できるだけ減らせるように更なる業務精選と定時退勤微増をしていきたい。 | 教頭 各担任 |
| | ○SOCを活用した、教育相談、児童対応の相談を推進し、ストレス軽減を図る。 | ○SOC来校日に合わせて、学年で相談する時間を全配当時間の1割を目指す | ・増えた教育相談日を活用して、指導困難児童の心を解きほぐしたり、担当教員の相談の時間を増加させる。 | B | ・予約のない時間に教室に入ってもらったり、問題行動のある児童の遊び相手しながら、分析をしていただいた。担任へは指導の具体案を指導してもらった。 | A | ・SOCに予約のない時間帯は、教室を回ってもらいアドバイスをいただいた。教職員も相談人数63人中8人の職員が相談して、1割を超えた。 | A | ・SOCには、教育相談だけでなく、支援会議にも入ってもらった。助言をもらうだけでなく様々な取組を提案してもらい、問題解決につながった。 | 主幹教諭 |
| ●特別支援教育の充実 | ○特別支援教育に関する研修を特別支援部を中心に全職員に行う。 | ○毎月特別支援に関する共通理解の研修を設ける。 ○長期休業中には、講師を招いてより専門性の高い研修を実施する。 | ・UD教育を提案し、意識した授業・教室環境づくりを行うようにする。 ・コーディネーターを中心とした支援体制を充実させ、全教職員で関わる。 | B | ・UDの観点から教室環境づくりを進めるため、年度当初に研修を実施した。 ・長期休業中の時間を活用して、支援学校からの指導を受け、児童理解を図った。個々の対応を考える機会となった。 | A | ・児童理解研修を年間7回実施し、全職員で共通理解することができた。 ・長期期間中に、療育機関や支援学校から講師を招き、全職員で2回研修することができた。 | A | ・教職員の資質向上のためにも、令和8年度も同じく研修を続けていくことが大切である。研修の機会を設け、校内のUDを進めていきたい。 | 特別支援部 |

| (2)本年度重点的に取り組む独自評価項目 | | | | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | 主な担当者 |
|----------------------|------------|---|---|-------------|--|-------------|--|---------|---|-------|
| 重点取組 | | | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
| 評価項目 | 重点取組内容 | 成果指標 (数値目標) | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見直し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ○ | ○学校教育目標の達成 | ○「はきものを揃えた」「まず返事をした」「先に挨拶をした」について肯定的な回答をした児童の割合が90%以上 | ・「浜っ子の3つの合言葉」を設定し、生活目標と関連させることで意識して取組を行う。 | B | ・「浜っ子の3つの合言葉」に関連した月ごとの生活目標を設定し、生活委員会の児童を中心として全校児童に呼びかけをしたり、目標達成できている学級を放送で知らせたりした。今後も、引き続き活動を行い、健全な児童の育成を図る。 | A | ・あいさつ返事については、80%が意識して過ごしている。また、はきものについては91%が揃える意識をして、使用している。 | A | ・高学年を中心に挨拶や返事に取り組んできたため、児童が意識して行動することができていた。今後も継続することで学校全体が明るい挨拶返事ができるようしていく。 | 生活部 |

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志と誇りを高める教育

| | |
|--------------------|---|
| 5 総合評価・ 次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> 学力向上については、授業方法の改善を進めることができてきた。さらにICT活用を促進して力をつけさせていきたい。 学校UD化について特別支援部の研修等で、職員の意識も高まっている。こちらも研修を進めて、困り感のある児童に対して個別最適化の学習を進めていくことが必要である。 労働時間短縮を目指す方策を立てる。 |
|--------------------|---|